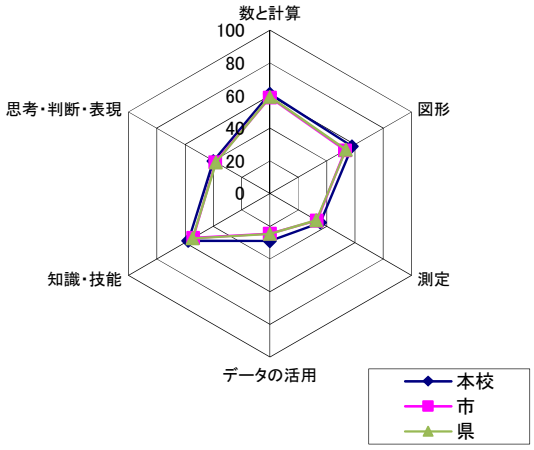
宇都宮市立錦小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.1	58.9	59.2
	図形	58.0	53.0	53.7
	測定	35.5	33.1	32.6
	データの活用	29.0	24.4	24.6
観点	知識・技能	57.7	54.3	54.7
	思考・判断・表現	40.0	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は，県や市の平均正答率よりもやや高い。 ○3けたのたし算の正答率は92.0%で，県の正答率を4.7ポイント上回っている。 ●同分母の分数の分数の加法の意味や計算の仕方を説明することができるかどうかをみる問題の正答率は32.0%で，県の正答率を4.7ポイント下回っている。	・加減乗除の計算を朝の学習の時間やAIドリルを活用して繰り返し復習することで，定着を図る。 ・分数のかけ算の仕方を説明することや，式の意味を正しく捉えて言葉で説明する等，自分の考えを相手に伝える時間を確保し，思考力の育成を図る。また，友達の考えに触れる場を設け，互いの考えを深められるようにする。
図形	・平均正答率は，県や市の平均正答率よりやや高い。 ○二等辺三角形の性質を理解しているかどうかをみる問題の正答率は86.0%で，県の正答率を17.9ポイント上回っている。 ●円の性質を利用して，正三角形を作図することができるかどうかをみる問題の正答率は38.0%で，県の正答率を2ポイント下回っている。	・基本的な作図問題で，コンパスの使い方の定着を図るとともに，円の性質を利用して三角形を作図するといった応用問題にも慣れるように復習する機会を設ける。
測定	・平均正答率は，県や市の平均正答率よりもやや高い。 ○地図から道のりを読み取り，2つの道のりの差を求めることができるかどうかをみる問題の正答率は50.0%で，県の正答率を6.1ポイント上回っている。 ●はかりの目盛りを読みとり，重さを答える問題の正答率は24.0%で，県の正答率を3ポイント下回っている。	・物の重さや長さを計測する活動を多く取り入れたり，単位の意味について復習したりして，既習の学習内容が定着するよう指導する。 ・面積の学習をする際に，具体物や半具体物を提示して，視覚的な理解ができるような支援を行う。
データの活用	・平均正答率は，県や市の平均正答率よりもやや高い。 ○適切な棒グラフから，示された値を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率は64.0%で，県の正答率を14.5ポイント上回っている。 ●目盛りの付け方が異なる複数のグラフについて，数の比べ方を説明することができるかどうかをみる問題の正答率は20.0%で，県の正答率を3.4ポイント下回っている。	・1目盛りが表す数に着目してグラフの作図を行うとともに，社会や理科など他教科との関連を図り，様々なデータに触れさせることで，繰り返し復習できるようにする。 ・資料として棒グラフが提示されている場合には，目盛りを正しく読み，グラフから読み取れることを自分の言葉で表現する場を設け，理解の定着を図る。